

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600401
法人名	有限会社 英
事業所名	グループホームなごみの里
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原2185-1
自己評価作成日	平成28年9月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年10月12日	評価結果確定日	平成29年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りが自然に囲まれており、野鳥の鳴き声や果樹自然菜園の栽培、収穫等により五感で季節を感じられる。また、町内会に加入しており地域との交流を大切にしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表者が地域住民であり、民生委員も務めていることから、地域に根差した関係性が築かれ、開設して14年目を迎えている。敷地内にて果拾いを行い、栗ごはんが食卓に上ったり、家庭菜園では多種多様な野菜が育てられ、椎茸栽培にも取り組んでいる。一時期は山羊が育てられる等、豊かな生活環境の中にある。入居年数が長い方が多く介護度も高くなっている中ではあるが、入居者の方々の豊かな表情から、個人の生活習慣やペースを尊重しながら、ふれあうことを大切にしたり日々の関わりが伝わってくる。生活感あふれる居住環境と自由な雰囲気印象的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を休憩室に掲示し、朝の申し送り時に唱和するようにしている。定期的に運営者により理念についての話を言い共有する機会を作っている	法人の理念と運営方針を、全職員が意識して日々の支援に携われるよう、目に付く場所に掲示して毎朝唱和している。代表者は日常の支援の中で理念に基づく考え方や支援のあり方を職員に示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が自治体に加入しており、地域行事に参加することにより地域の一員として日常的に交流できている	法人代表者は永く地域に居住し、民生委員を務める等地域との関わりが深い。自治会に加入し行事を通して地域との交流があり、神幸祭の神輿や獅子舞の巡行も受けている。近隣に居住する職員もあり、地域の方々や子供たちが気軽に訪れ、利用者の方々と自然な交流の機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人から認知症についての相談を受けることもある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族の方が参加しやすい様に定期的に來られる曜日に設定し、2ヶ月に1回行っている。地域包括支援センターの方にも参加していただいている	家族や民生委員、地域包括支援センター職員等の出席を得て、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。全家族に案内状を送付し参加を呼びかけている。議事録は誰もが閲覧できるよう玄関の目につく場所に掲示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の方々の生活をホームだけでなく行政との相談や理解を得ながら支援しており連携してサービスの向上に取り組んでいる	空室状況の共有や相談事は、運営推進会議に出席している地域包括支援センター職員と連携をとっている。ケースワーカーの方も時折来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、社内で研修をしている	玄関は日中施錠されておらず、センサー等の使用もない。身体拘束排除宣言を掲げ、抑圧感のない自由な暮らしが出来るよう努めている。マニュアルを作成し、事業所内で勉強会を開催し、身体拘束に関する意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、社内で研修をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に行く等、学ぶ機会を持っている	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している方はいないが、必要時には活用に向けた支援が行えるよう、学ぶ機会を確保している。これまでに、運営推進会議の中での情報提供を行った実績がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族の参加、意見交換の場となる様働きかけている。家族の来園時に近況報告をする等コミュニケーションの機会を大切にし、意見の言いやすい関係作りに取り組んでいる	家族来訪時の交流を大切にすると共に、花見や敬老会、運営推進会議等は家族全員に案内状を出して参加を呼びかけ、意見や要望をお尋ねしている。月に1回、日常の様子を伝える便りや写真にて状況報告を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に職員の意見を聞くようにしている	毎月職員ミーティングが開催され、代表者をはじめ全職員参加している。業務改善や個別ケアについて活発な意見が出され、乾燥機の購入等、実際に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り職員の希望に合わせた勤務にしミーティング時に話を聞く機会を設けている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては年齢や性別による排除は行っていない。職員専用トイレ・休憩室を整備し、リラックスできる空間作りを行い、旅行や軽食付きのミーティング等働きやすい職場環境づくりに努めている	年齢や性別、有資格等の制限は設けず、働く意欲を重要視し、個別の状況に合わせて(時間・昼夜等)採用している。休憩室や職員用トイレ、個人ロッカー等が整備され、休憩時間や希望休の取得に配慮している。職員の個性を活かした役割分担もあり、職員同士で食事会を開いたり働きやすい雰囲気がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内研修やミーティングにおいて認知症ケアや個別ケアについての話し合いを行っている	年間研修計画の中に、プライバシー保護や倫理及び法令遵守、認知症ケア等を組み込み、利用者の人権を尊重する支援について学ぶ機会を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングや月末には職員ミーティングで事例検討を行う中で意見を出し合いお互いにレベルアップできる様に取り組んでいる		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、情報の共有、交流の機会としている。他事業所への見学や他事業所からの見学などを行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意見の疎通が可能であれば入居者から話を聞く機会を設けている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族の話を聞く機会を設けている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネや他の職員とも話しをして必要な支援は何かなど対応できる様に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族としての関係作りを大切にしている。日々の暮らしの中で昔の話などを聞くなど学ぶ場面も多くある		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	園での行事などに参加してもらえるように声掛けをし、来園されたときに一緒に介助をしてもらったりしている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談をしてなじみの方に来園してもらえるように支援している	家族や知人の方の来訪を歓迎し、利用者と共に年賀状を書いて関係性が途切れないように支援している。また通院の際に馴染みの場所や買物に立ち寄ったり、敷地内で栗拾いや柿を取って昔話に花が咲いている。醤油や酢、味噌等の調味料は地元のものを使用している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の位置等に気を使っており、入居者同士が多く会話できるよう日中は談話室で過ごしていただける様にしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等の参加の声掛けや入居先、入院先への訪問や連絡を待つようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者は常に人に迷惑をかけたくないという思いがあり、その思いを大切に少しでも自立した暮らしが送れる支援を心がけている	アットホームな雰囲気がうかがえ、日常の会話の中で安心して意志表出が行える信頼関係づくりに努めている。困難な場合にも、表情や仕草等から推し測り、ミーティング等にて共有を図っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や入居者との日常会話などから、今までの暮らしを把握できるように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況から把握するように努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は日々の暮らしが入居者一人ひとりの意向を反映し満足した暮らしができるよう本人や家族からの情報、職場の意見を検討し作成している。また介護計画は本人や家族に説明し了解を得るようにしている	日々の実践状況をチェックしながら、全職員が参加するミーティング・カンファレンスにて現状の確認や見直しの必要性を検討し、毎月モニタリングを実施している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をとっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化としては認知症対応型通所介護の指定を受けている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回の消火避難訓練を行なう時は消防署に来ていただき運営推進会議には、地域包括の職員に来ていただいている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のほとんどが何らかの疾患や障害がある為定期的な通院を行っている	入居以前からのかかりつけ医への受診を支援し、必要に応じて同行し、日常の様子を伝えたり状態に応じた指示を受けている。受診結果については、家族との情報共有に努めている。週1回、訪問看護師の来訪があり、健康管理や適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと業務提携をしており定期的に訪問看護を受けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人、家族、医師との話し合いをし出来るだけ早く退院できるように努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師への相談、職員、家族との話し合いで十分行うように努めている	入居時に、重度化した場合や終末期に向けた事業所の方針を指針をもとに説明し、意向を確認している。状況の変化に伴い、家族や医師を交えた話し合いを重ね、方針の共有を図っている。入院先に頻回に訪問する等、関係性の継続にも配慮している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、防火訓練等を行い救急救命についても消防署の指導を受けている	年2回、火災を想定した避難訓練を実施している。法人代表者や職員の自宅が近接しており、非常時には駆けつけることも可能である。通報訓練や消火器の使い方、避難誘導などの訓練を行い、備蓄品も用意されている。	自然災害も含めた防災対策に取り組み、時間帯やライフラインの遮断等も想定した訓練実施が期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護については職員全員が遵守しなければならない事項である為、新人教育の研修時から大切にしている	声掛けや対応について気付いたことは職員間で注意しあえる関係性がある。起床や食事時間などは個人の体調や意思に合わせ個別に対応し、個別の習慣やペースを尊重している。プライバシーや個別性について内部研修を実施している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選ぶことが出来る様に声掛けをしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活行動についての時間配分はしているが一人ひとりのペースを大切に本人の意向を聞くことで自己決定権がもてるように支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問していただいております、身だしなみは本人に任せたり職員が手伝って一緒にやっている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者にとっての楽しみの一つであるので嗜好調査等を行いおやつや飲物などにも反映させている。食事介助が必要な入居者もいるが常に一人ひとりのペースを大切に支援している	日常の中で嗜好を聴き取り、毎日地域のスーパーへ買い物に出かけ、職員の手作り料理を提供している。敷地内で育てた椎茸や野菜、自家製米など、豊かな食材も活用している。花見や紅葉狩り等の行事の際には、弁当を購入し戸外での食事を楽しむ機会がある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患による食事や水分摂取量の指導を受けている入居者もいる為、食事水分摂取量は必ず記録している。病状による特別食、水分摂取量なども医師の指示を守り相談しながら出来る限りの支援を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについて歯科医と相談して一人ひとりの力に応じて支援している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり合わせた排泄をできるよう支援している	日中はトイレでの排泄を基本とし、排泄・水分チェック表を用いて個別の状況の把握に努めている。排泄動作や姿勢保持を意識しながら、日常の中で立ち上がり訓練を継続しており、トイレでの排泄や自立に向けた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師へ相談し薬や食事の工夫で対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる状況ではあるが入浴拒否の入居者もあり、清潔の保持や全身状態の観察の点から週2回必ず入浴出来る様にタイミングをはかり、一人ひとりその人に合った支援を心がけている	湯船にゆっくりと浸かれるよう、状況に応じて2名での介助を行っている。コミュニケーションを深める時間としても活用しながら、週に2回以上の入浴となるよう、声掛けやタイミングを工夫している。清潔保持に留意し、失禁時のシャワー浴実施も含め、柔軟な支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルを作り確認できる様にしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での自分の居室は職員と一緒に掃除や片付けを行っている。洗濯物をたたむ等、これまでの暮らしの経験や特技を発揮出来る様に取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事への参加やホーム敷地内の散歩等を含め戸外への外出支援を行っている。入居者は車椅子利用者が多く、あまり外出希望は多くないので通院途中で興味ある場所へ立ち寄ったり、医院のスタッフや他の通院者との会話等を大切にしている	広い敷地内の菜園では、オクラや茄子、トマト、ジャガイモ等の野菜が育てられ、椎茸栽培も行われており、気軽に外気浴を行える環境である。受診の際には、買い物や馴染みの場所に立ち寄ることもある。全員で出かける花見と紅葉狩は年の恒例行事として定着している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物レクリエーションを行い支払いを本人にして頂いている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいと希望された時は自由に使用して頂いている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はゆったりとした感じで床にはカーペットを敷いている。玄関先に設置しているソファは入居者同士のくつろぎの場となっている	玄関にはソファが置かれ、観葉植物や利用者の手による作品が飾られ、少人数での語りの場として活用されている。共用空間には日常の暮らしが伝わる行事の写真等が掲示されている。安全面や利便性に配慮し、玄関のスロープが舗装し直されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファで過ごせる様にしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとローチェストはホームの備品で他は本人の使い慣れた家具、テレビ等を持ち込まれ思い思いの住まいとなっている	筆筒やテレビのほか、携帯電話や漫画の本、大きな猫の写真や書籍、男性化粧品等、個別の暮らしに必要なものや大切なものが持ち込まれ、個性ある居心地の良い空間づくりに配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており歩行訓練をされたり転倒防止になるようできている		